

京都教区時報

第113号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨

編集 京都カトリック教理センター 住所 京都市左京区仁王門通新高倉東入 Tel 761-9095

特集 '86 京都教区 各地の平和への歩み



「あなたがたに平和！」

キリストが今も私たちに呼びかけておられるこの平和は
私たちを通して、まわりに、全世界に広がって行かねばなりません。

平和のために働くことは、キリスト信者の第一の使命です。

「この平和の恵みが、私たちの協力で実現するまでに、なんと、
多くのことをしなければならないでしょう。この恵みを、私たちの臆病さや、悪意に
よつて壊さないために……」

「平和への歩み」はその一つの取り組みです。

(教皇の後楽園でのメッセージより)

キリストの望まれる
平和を実現するため
どんな問題があるのか
何ができるのか
何をするべきなのか
みんなで考えましょう



「平和達成のために、自らを啓蒙し、他人を啓発しようでは
ありませんか。ともに手を取り合って、友情と団結のある未来を
作ろうではありませんか」

(教皇の広島での平和アピールより)

「平和への歩み」は京都教区あげてのこの使命への第一歩です。
平和への歩みは私たち全員への問い合わせです。

興味ある一部の人々の活動、と考えるのは大まちがいです。
皆で考え、皆で一歩ずつ平和に向って歩みましょう。

「平和は正義の実りです。平和はまた愛の実りです」

(教皇の後楽園メッセージより)

司祭評議会定例会議報告

'86年5月26日

司祭評議会牧検討委員会の設置について

し、近隣小教区同志の交流をはかりたいと考えています。

具体的なこととして、すでに始

められていることは、お互いの小

号で報告しましたように、司祭評

では適正配置についての実行委員

会が作られ、討議されてきました

が、具体的に、どこまですこめて

いけばよいかあいまいなため、昨

年十月に話し合われた以後は、中

断していませんでした。

その間に、三月号の松本師の記

事にありますように、京都南部地

区の司祭達が中心になって、具体

的に何ができるかを、信徒も含め

て、二つのブロックで話し合われ

てきました。

この間、こうした動きに対しても、

ある信徒の人達は、小教区がなく

なるのではないかという不安を感じ

じてきたようです。

これからすすめていくことは、

すぐには小教区の合併や廃止をする

のではなく、まず、それぞれの小

教区共同体をしつかりしたものに

、ある小教区の司祭が、休暇や、病気などで留守になる場合に順番にそれぞれの小教区で主日に集会祭儀を行つて、司祭が留守の小教区を助けることなどが考えられています。

こうした動きに対しても、司祭評議会としても、これからの方針を探し、宣教司牧評議会に提案していくために、「司祭評議会牧検討委員会」を設置することになりました。委員として、バルデス師、ネリグ師、ジャクソン師、オヘーリ師、近藤師、ルカ師、村上(透)師が選ばれました。

(文責・滝野正三郎)

司教の足どり

5月

1日

2日

3日

4日

5日

6日

7日

8日

9日

10日

11日

12日

13日

14日

15日

16日

17日

18日

19日

20日

21日

22日

23日

24日

25日

26日

27日

28日

29日

30日

31日

FX

越知庸之助氏葬儀ミサ(夙

門脇師と面談)、(尊父)

女子M理事会(四日市)

M

行(来訪)

司祭評議会W・ジエーム

ス師49追悼ミサ(加悦)

宮津信徒代表と面談

祐京都カリタス会理事會(CBS)

山口会長、吉田君(ボリビア)

50周年委員会

司祭評議会W・ジエーム

ス師49追悼ミサ(加悦)

宮津信徒代表と面談

祐京都カリタス会理事會(CBS)

'86 平和への歩み学習会

被差別部落に住んで思うこと

小笠原亮一氏(牧師)講演より

5月25日

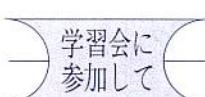
就職差別、教育の不平等など戦後の部落解放運動は、部落の人たちの極度に貧しい生活実態を“部落差別”としてとらえてきた。またこの問題を長い歴史の中で放置してきた行政に対し、責任を問う行政闘争を部落解放運動の主体とした。

解放運動は、部落と他の集団(政党、労働組合、宗教団体)の共同闘争の中で大きな成果をあげてきた。しかし、結婚問題にも代表されるようにまだまだ差別の壁は厚い。特に結婚というのはきれい事の闘争ではどうにもならない問題となつてている。

組織的共同により進学、就職という問題は良くなってきたが、本当の意味での社会的共同ということにはまだ遠い。人間と人間の出会い、心のふれ合いということを真剣に考えてみたい。本当の人間の共同、それは、「部落の人達」と部落外の人達が心を通わし合い、

長い歴史の中でききた差別の壁を乗り越え、人と人として出会うことはないか。このことは簡単にできることではありません。

しかし、キリスト者として、神と人とのつながり、出会いの方を教えられている私達は、この隔たりをどう乗り越えていくか、もつと



にて
会にして
学習会に
参加して

差別の壁を乗り越えていくには

Sr. 米屋恵美子

私たち、キリストのからだの肢体なのである。「それゆえに、人は父母を離れてその妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである。」この奥義は大きい。それは、キリストと教会をさしている。(エフェゾ人への手紙 5・30-32)

部落の問題は、小笠原先生のお話を伺うまで正直なところ私の身体の外にありました。

長年家族と共に被差別部落に住んだ経験から出た講演の要旨は、同師の経験の紹介というより信仰告白そのものと感じられました。

また、部落での生活を通して学び得た部落の方々の人間にに対するいたわり、やさしさは、キリスト

何度もか平和への歩み学習会のテ

自分で自身の神との出会いの中でも考えていかなければならないと思う。そして、私達、部落の人達の負い目をキリストによって軽くしていただき、この差別の壁を乗り越えていくよう努力していきたい。

私は部落において、長い間の苦しみから身につけてきたいたわりの心と人間の尊厳を踏みにじるものに対する厳しい怒りとを学んだ。そして、何よりも人間と人間の出会いの意味は「聖書」が教えてくれている。キリストの言葉に耳を傾け、これからも、この差別の壁に挑戦していきたい。

講演の後で一人のシスターが、ある医療施設で雇用者として受け入れた部落の方が示された同僚への負い目、思いやりに接し初めてその問題の根深さに目覚めさせられたこと。また若い女性の一人が、差別的なことばを何気なく使って躊躇、それが動機となって部落問題に關るようになつたと、それぞれ貴重な体験を聴講者の皆さんに分かちあつて下さいました。このような与えられた自分の立場、生活、時の中で部落の方達への私共の負い目、部落の方々の負い目を共に神に軽くしてもらひながら、また、キリストに支えられて立ち向うべき課題を痛感しました。

'86 京都教区各地の平和への歩み



平和は

私たちが築くもの



教区で今年の夏に計画されている平和への歩みを特集しました。奈良では青年たちによる中高生のアジア学習会が行われ、その感想文をご紹介します。

私たちキリスト者は「平和」を単なる理想や願望だけに終わらすことなく、一人一人が関心を持ち、平和を具体的な行動で示してゆくことが、今、求められています。

中学生の目から

平和を考えよう

中学生広島平和巡礼 8月5～7日

今年も8月5～7日(2泊3日)

中学生の広島平和巡礼を行います。

現代の中学生達が、平和学習を通

して、キリストの福音にめざめ、

中学生の広島平和巡礼を行います。

往復、国鉄普通列車を乗り継ぎ

わいながら、広島教区主催の平和

ミサ・平和行進に参加し、6日の

平和祈念式典にあづかったあと、

平和公園の碑めぐり、被爆者の体

- いのでしよう?
- 私はこう思いました。世界中の人々が平和を願うならば、絶対に戦争なんか起らなくなると思います。
- 戰争は人間がおこすものです。そのたびに多くの生命が失われ多くの人が苦しみ、環境がつぶされます。人間がいるから戦争がおこるのではなく、人間がいるから平和だ、ということにしていくことが必要だと思います。
- ぼくは悲惨な状況を見て、二度と戦争はすべきでなく、恒久平和を望む世界の人々が、この悲惨な状況を知ることによって、反対の運動がもり上ると思い、そのためには日本人が訴え続け

昨年の参加者の文集より

- 驚談、精霊流しの見学等。猛暑の中、少しハードなスケジュールですが、旅行で訪れるのは違う、中学生の目から平和の問題の大さをきっと感じとつくれることでしょう。

験談、精霊流しの見学等。
猛暑の中、少しハードなスケジ

ュールですが、旅行で訪れるのと

は違ひ、中学生の目から平和の問題の大さをきっと感じとつくれることでしょう。

- なぜなら、私はこのままではいけません。
- 戰争の中で犯した罪は、殺人、差別など無数にあるが、それらの罪は「戦争中だったから仕方がなかつた」という言い訳の元に、今の私達に隠している場合が多いのではないか。戦争を知らない若者が、批判するのは無責任で勝手かもしれないが、私達にはその様な事実を知り、自分の意志で批判する義務がある。
- つい最近まで被爆者ということをかくしていた人がいると聞いたけど40年間もかくさなければいけないような世の中だったのかと思う。
- 原爆は人間が作り、落したものだ。人間というのは、私もだ。

- 人が死んで平和はくることはないのです。平和を考えて戦争をなくさなければならないのです。そのためには私は何をしたらいい

子どもに平和な未来を

—アジアの共生を目指して—
平和を求める祈りと
コンサートの集い

ユスティ(平和の賛歌)の中で「ド

ナ・ノービス・パ・チエム」(平和を
与え給え)と鮮烈に歌い上げる祈
りの声は感動深いものです。

日時 8月9日(土)PM 7時より
場所 聖母女学院短大講堂
演奏 ベリヨースカ合唱団
京都学生オーケストラ
曲目 ハイドン作曲「戦時のミサ」
祈りと説教 松本三朗神父
入场無料

キリストを信じることは神の心
にかなつた社会をつくることです。
神の望みは私たちの平和ではない
でしょうか。

この祈りとコンサートを通して

すべての平和を求める人と心を一
つにして、平和の実現のために祈
りたいものです。

祈りと合わせて演奏されるハイ
ドンの「戦時のミサ」はオースト
リアがナポレオンの軍隊に侵略さ
れている時、ハイドンが戦争への
怒りと平和への祈りをこめて作曲
したもので、特に終樂章のアグニ

れて、京都学生オーケストラが協
演いたします。

名曲に耳を傾けつつ、作曲者の
平和への願いを味わい、ともに心
を一つにして祈るこの集いに、一
人でも多くの人々が、友人を誘い
合わせて出席されることをお勧め
します。

被差別部落の問題を

第一步から考えたい

津教会 正義と平和委員会

去年、「解放の神学」学習会で
弱い立場の人々、しいたげられて
いる人々の側に立つことの大切さ

と、その方達を通して、訴え、叫
ばれるキリストの声に耳を傾けな
ければならないことを学んだ。今

年は、その現実的テーマとして、
被差別部落の問題を、第一歩から
学び、考えたいと思う。みのりあ
る学習会になるようお祈り下さい。

下記日程表を参考され多くの方
の参加を期待します。

▼開催時間 いずれも午前9時

ミサ後 ▼詳細は津教会、正義と平
和委員会におたずね下さい。

| テー マ | 講 師 | テー ブを 聴く日 |
|---|-----------------------------|-----------------|
| 7 /13 キリスト者として | 相馬信夫司教 (名古屋教区長) | 7/18 |
| 9 /28 差別の歴史 被差別部落に対する カトリック教会の関わりの歴史 | 上杉 聰氏 (関西大講師) 大阪正平協会員 | 10/3 |
| 10 /26 学校でどう教えているか 津市教育委員会 同和教育室先生方 | | (予 定) |



今年、奈良青年連合会は知らなきすぎたアジアの国々について具体的に国をしづら中高生と共に学習することを始めた。今回はフィリピン、タイ、韓国。それぞれ自分達の体験した事、神父さんから聞いた事、本から学んだ事を、スライド、手作りの資料を用いて積極的に学んだ。（以下感想文）

フィリピン

フィリピンを選択して、今まで知らなかつたバナナ産業の現実、貧しい子供たちが働いている事等今の日本では考えられない事がたくさんあつた。少数の大金持ちがマニラの中心に会社を持ち、そのまわりで、貧しい人々がゴミを拾つている。僕としては、僕らがそういう人々のために働いても、あまり変わらないと思う。フィリピンの場合、大金持ちがマニラにいるのだから、僕らの他に、大金持つちの人々が、貧しい人々を援助しなければならないと思う。そのためにも、アキノ女史が、フィリピンを早くたて直してほしいと思う。

難民の場合は、金も必要だが、それ以上に多数の人の協力が必要

と思う。スライドでマザー・テレサの活動を見て、「物より人」といふことを感じた。キャンプで子供が笑つている姿が強く印象に残っている。富雄 北畠 仁^(高2)

タイ

アジアを知ろう勉強会に参加させていただき、まずいろんな仲間に出会えてうれしかった。

年齢にややひらきがあつたような気がするが、みんなの純粹さに忘れかけていたものを再び思い起こしたようです。

さて、分科会に分れてタイについて話し合つた。

「ノックちゃん町へ」の本の話を聞いて、まだ小学生のノックちゃんが家族のために売られていく事を知り、「憤り」や「悲しみ」そして「なぜ」「どうして」というやるせない気持ちになつた。みんなもそうだと思います。一番ショックなそして耳にこびりついているのは、校長先生のいつた「せめて

アカデミーに対して耳にこびりついているのは、校長先生のいつた「せめて」の言葉に対して、ノックちゃんは

中高生と共に 奈良青年連合会

アジアの国々の勉強始めました

韓国

高田 友井健二

かつて日本兵が、韓国の人々にやつたことをきいているうちに、初めは韓国の人々に対する態度は、韓国をはじめ東南アジアにやつたことを反省するなら、教科書に載せる必要があるだろう。

これからは二度とこのようないまちをおこさないでおこうと思いました。富雄 冬木春子^(高2)

きつぱりと「いいえ、バンコクに行きます。そして、家にお金を送ります」こういうタイの情勢をよく知り、そして自分に出来ることは何かということをもつとよく考えて高田教会でも話し合いたいと思います。

今、高田教会にもベトナム難民である、ヴィンさんとタイさんの二家族が自立して生活しましたところです。でも生活文化のちがいでなかなか定職につけず、今も職を転々としています。したところです。でも生活文化のちがいでなかなか定職につけず、今も職を転々としています。今まで見て見ぬふりをしていたまた高田で分ち合い、彼らと共に歩もうと思った。

今日、この勉強会で得た事を今まで見て見ぬふりをしていました。あるということを自覚し、彼らを見下す態度をやめない限り日本の将来はくらやみだと思う。そのとおりだ。そのことは、日本人は自分の行為に反省していないということであろう。もし、韓国をはじめ東南アジアにやつたことを反省するなら、教科書に載せる必要があるだろう。

りだつたがだんだん自分の國の兵隊がにくらしく思え、そして恥ずかしく思えてきた。彼らは常識

今でも東南アジアを見下し、ヨーロッパ・アメリカにはペコペコする日本人を韓国人また東南アジアの人々はどう思つてゐるのだろうか。たぶんその態度から考えて我々日本人は、韓国・東南アジアの人々から「日本は我々にしたことを行つた」と思われても仕方がないのではないかと思う。

日本人が自分はアジアの一員であります。今まで私たちがアジアの一員であると自覚する必要があると思う。

そして私がもう一つ日本の行為に対する疑問をもつたことは、韓国をはじめ東南アジアに對してやつたことを教科書に載せてないことに對して疑問をもつたことは、韓国をはじめ東南アジアに對してやつたことを教科書に載せてないことがあります。

これからは二度とこのようないまちをおこさないでおこうと思

いました。富雄 冬木春子^(高2)



パプアニューギニアへ行きます!

信徒宣教者(レイ・ミッショナリー)
吉田 勉さんにインタビュー



吉田 勉さん

京都市に生まれる。20歳の時に受洗。
12年間の会社勤めを経て、今10月、オーストラリアで語学研修として、パプアニューギニアへ。33歳。

「信徒宣教者」というのをご存知ですか? 去る5月4日、横浜カトリックセンターにおいて、浜尾司教式の派遣式のミサが行われました。6名の信徒宣教者のうち、京都教区から、京都・衣笠教会の吉田勉さんが派遣されました。

はじめて信徒宣教者について説明して下さい。

「信徒として、つまり、司祭やシスターではなく、一般信徒として宣教活動をする者の事です。特に第三世界で働く者は開発援助を通して宣教をしています。」

●信徒宣教者になろうとしたきっかけは?

「二年前の『青年アジア体験学習』で、フィリピン

をご存知ですか? 去る5月4日、横浜カトリックセンターにおいて、浜尾司教式の派遣式のミサが行われました。6名の信徒宣教者のうち、京都教区から、京都・衣笠教会の吉田勉さんが派遣されました。

はじめて信徒宣教者について説明して下さい。

「信徒として、つまり、司祭やシスターではなく、一般信徒として宣教活動をする者の事です。特に第三世界で働く者は開発援助を通して宣教をしています。」

●信徒宣教者になろうとしたきっかけは?

「二年前の『青年アジア体験学習』で、フィリピン

●どこへ派遣されるのですか。

「パプアニューギニアへ行き、そこで、出版関係の仕事をします。外国人の信徒宣教者を中心の業務を、現地の人々の手で運営出来る様にすることが仕事です。」

●特に目標とすることは何ですか。

「人々とのかかわりを大切にしたいと思います。しばらくは、パプアニューギニアを知り、人とよく出会いたい。出版の仕事も、自由な発想で、パプアニューギニアのためを第一に考え行動したいと思っています。又、日本教会のために役立ちたいとも思っているんですね。」

◆皆様どうぞお祈り下さい。

のインファンタへ行つた時でした。信徒のリーダーが中心となり地区ごとに聖書のわかつ合い、生活面の指導等をやっています。

また、オランダ人の修道士が農業指導を行つて、少ない司祭を助けています。私は、この修道士の姿を見て、開発援助を中心とした活動をしたいと思つたのです。」

●どこの派遣されるのですか。

「パプアニューギニアへ行き、そこで、出版関係の仕事をします。外国人の信徒宣教者を中心の業務を、現地の人々の手で運営出来る様にすることが仕事です。」

●特に目標とすることは何ですか。

「人々とのかかわりを大切にしたいと思います。しばらくは、パプアニューギニアを知り、人とよく出会いたい。出版の仕事も、自由な発想で、パプアニューギニアのためを第一に考え行動したいと思っています。又、日本教会のために役立ちたいとも思っているんですね。」

◆皆様どうぞお祈り下さい。

きょうと◆しが◆なら◆みえ

福音宣教

—幸せを広げる信徒に—

三重信徒大会

四月二十九日県下の信徒二〇〇名余が四日市海星高校に集まり福音宣教について学んだ。

I 庄嚴ミサ 田中司教式で大会開催

説教要旨

主日を単に義務とする守りの姿勢から、私達の幸せを広げ、社会のさまざまな不義を正してゆくため、一人一人が召された使命に生きる自主的、積極的な姿勢に変えること。教区五十周年も恵みの時であり出会いを大切にして教会活性化に努めよう。

III 分ち合い

県下十教会から奉仕、講演会、

II 講演 南山大学教授青山玄神父
『明治・大正・昭和初期の

信徒の宣教活動

要旨

明治前期、宣教師の少なかった時代に、日本社会の近代化と福音伝道に奔走した男子信徒達がいた。彼らは自動的に人を集め、食を宿す貴重なものを提供した。司祭は

年に数回巡回して仕上げをし、洗礼を授けていた。深い祈りと不思議に聞き入れられる体験があり、言葉には力があり、大きな成果があつた。しかし残念なことに、ローマ布教聖者教令によりホームチャーチは禁止され、西欧化聖職者中心になり、信徒主導は消え、農村伝道は総くずれとなつた。(中略)主と共にいる体験をさせ、これを人々に証しする。自分の祈りと救いの体験と聖書読書に基づいて考え、話し合のが信徒神学であるならば、体験発表は新興宗教に負けない大きな力となろう。いま福音宣教の原点に帰つて再考すべきではないか。

(四日市・鈴木)

お知らせ



十字 帰天

教区スケジュール

7月

6～15日 平和旬間

7日 司祭評議会

18日 SVP京都中央理事会

23日 司祭月例会

27～29日 奈良高校生レトルノ

28日 三重地区司祭会議(津)

29～8/1日 三重中学生レトルノ
(メリノールハウス)

平和への歩み 講演会

日時 7月13日(日)
PM 2時～4時

テーマ
在日韓国人・朝鮮人との
共存をめざして

講師 李清一氏
(KCCセンター)

場所 カトリック会館6階

| | |
|--|--------------------------------------|
| 5月27日 AM 8時 | フランシスコ・ザベリオ平間信夫様(84) |
| 平間三郎師(故人)令兄 | |
| 越知健師(希望の家所長)敬父 | フランシスコ・ザベリオ越知庸之助様(78) |
| 5月27日 AM 10時42分 | |
| 教会学校リーダー養成研修会 | 第11回 |
| 8月1日(金)～3日(日) 9:30～16:30 | 日時 8月9日(土)PM 7時より |
| 会場 カトリック会館6階 | 場所 聖母女学院短大講堂 |
| 会費 1日 2,200円(昼食付) | 演奏 ベリヨースカ合唱団 |
| 対象 教会学校リーダー(リーダー になりたい人を含む)両親 | 京都学生オーケストラ |
| 定員 50名 | 曲目 ハイドン作曲「戦時のミサ」 |
| 第1日 カリキュラムの作り方と その進め方 I Sr.米屋(牧理セントラル) おはなしの生かし方 中川正文氏(京都市立大学 看護学科) | 祈りと説教 松本三朗神父 |
| 第2日 カリキュラムの作り方と その進め方 II Sr.景山(医療修道会) 田辺教会 | 主催 「平和への歩み」実行委員会 (詳細はP.5を参照して下さい) |

10月から3月、楽しく学ぼう 聖書が好きになる講座

—あなたも宣教者になろう—

京都南部の皆さん

受講者を募集中!!



やる気熱意のある人、若者も大歓迎。

この講座は、毎週1回(木曜日・金曜日・土曜日)6ヶ月間(全18回)。学び、わかち合いながら、キリストを言葉と行いで伝えることを研修します。講師は京都南部の神父様方です。この機会にあなたに語りかけられている言葉に耳を傾けてみませんか?ご参加を心よりお待ちしています。

▼定員各18名▼主催聖書使徒職委員会▼申し込みなど詳しくは各教会の募集案内をご覧下さい▼お問い合わせ 教会主任司祭、又は牧理セントラル藤井まで。

平和を求める祈りと
コンサートの集い

「子どもに平和な未来を
—アジアとの共存を目指して—」



雨の中、あなたの一票を○○候
補に、△△候補が最後のお願いに
参りました、の絶叫が笑きぬける。
福音宣教の熱心さも、キリスト
の命を生きる日々の努力がなかつ
たら。この絶叫に似てくるのでは
ないかしら。投票も私の信仰の表
現と思うがさてどの候補? (Y)